

2024/12/16 (月)

朝の礼拝

聖書 ルカによる福音書 2章 8-15節 (新約聖書 102頁)

すると、突然、天の大軍が現れ、この天使と共に神を賛美して言った。
「いと高き所には栄光、神にあれ
地には平和、御心に適う人にあれ。」

地には平和

いま歌った263番「荒野の果てに」は「あら野のはてに 夕日は落ちて、たえなるしらべ 天よりひびく」と歌われています。人里から離れた荒野の暗闇で野宿する羊飼いたちが主の栄光に照らされ、天使の歌声に包まれている聖書の言葉を歌っています。

羊飼いたちが野宿した荒野は昼夜の寒暖差が激しく、昼は40℃以上、夜は零下になります。彼らは火を焚き、闇に隠れる獣や強盗に目を凝らし、夜通し羊を守りました。彼らは土地も家も持たず、羊たちのために水や草を求めてはさまよい、どこへ行ってもよそ者でした。

その彼らに、救い主誕生が最初に知らされました。どうして彼らを選ばれたのでしょうか。後にイエスはご自身を良き羊飼い、良い羊飼いは羊のために命を捨てると言っています。迷子になりやすい羊を命がけで守る彼らの姿は、罪人を赦すため命を捨てたご自身でした。

「地には平和、御心に適う人にあれ」との歌声が続いています。救い主は十字架の生涯を通して、自らの命を献げるために生まれました。生きるのは荒野のように厳しく、わたしたちは弱く、迷います。しかし自らを献げ、互いに愛し合うところに平和があるのです。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたはこの世で最も闇の深い時に、小さなベツレヘムの村の馬小屋に人知れず誕生されました。その頃も、今も、絶えず救いを待ち望む人々の祈りが献げられています。どうか愚かにも分かれ争う人々に悔い改めの心を与え、嘆き悲しむ人々の祈りを省み、ひと時でも早く平和の時を与えてください。あなたはこの世の光、平和の君として来られ、永遠に共におられる方です。どうか今日一日も、すべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン